

## MURC Focus

# 二大政党が大敗した英国の統一地方選

～懸念される労働党のさらなる左傾化～

調査部 主任研究員 土田 陽介

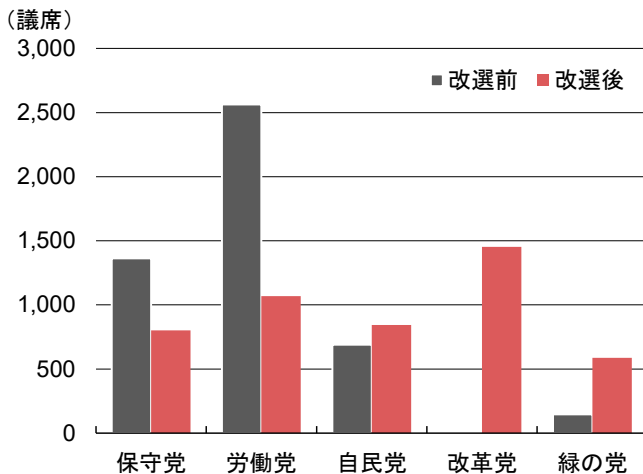
- 5月7日に英国で大型の統一地方選が実施されたが、うちイングランド地方選では、中道左派の与党・労働党と中道右派の最大野党・保守党のいずれもが惨敗する結果となった。
- 労働党に対する英国の有権者の信頼は失われる一方である。背景には、労働党政権の下でも英国経済の不振が続いていることにあると考えられる。
- 労働党政権が経済的な観点から大きな政府路線を修正できるか。それとも政治的な観点から大きな政府路線を強化するかが、当面の英国の経済情勢の注目点となる。

## 1. イングランド地方選では二大政党が大敗

5月7日に英国で大型の統一地方選が実施された。この選挙ではスコットランドとウェールズで自治政府の議会選が行われたほか、イングランドでは136の自治体で5,066の議席と6つの首長ポストが争われた。うちイングランド地方選では、中道左派の与党・労働党と中道右派の最大野党・保守党のいずれもが惨敗する結果となった(図表1)。代わって勢力を急伸させたのが、新興右派の野党・改革党(Reform UK)だった。

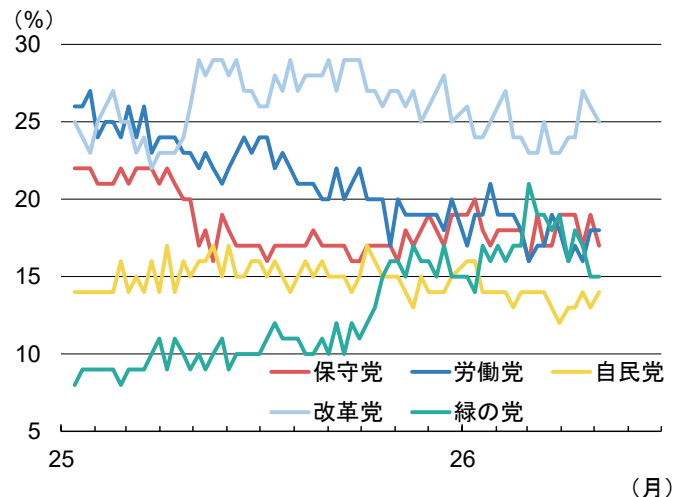
ナイジェル・ファラージ党首が率いる改革党は、主要政党の支持率調査でも首位を走っている(図表2)。かつて保守党や自民党を支持していた有権者が、改革党を支持するようになったものと考えられる。一方、労働党の支持率は保守党と同程度まで水準が低下している。これまで労働党を支持していた有権者の多くは、環境左派である緑の党を支持するようになったもようである。

図表1. イングランド地方選の結果



(出所) イングランド選挙管理委員会

図表2. 主要政党の支持率調査



(出所) YouGov

## 2. 背景にある英国経済の不振の長期化

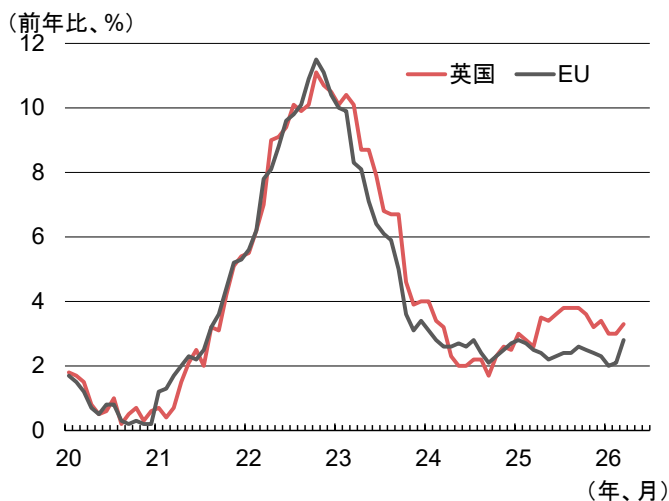
2024年7月の総選挙で地滑り的な勝利を果たし、保守党から政権を奪取した労働党だが、有権者の信頼は失われる一方である。その理由として移民対策の不十分さが指摘されるが、それ以上に英国経済の不振が続いていることがあると考えられる。キア・スターマー首相が率いる労働党政権は、英国経済がスタグフレーション(景気停滞と物価高進の併存)の渦中にあるにもかかわらず、いわゆる“大きな政府”を追求してきた。

大きな政府の下では公需が膨張し、スタグフレーションを長期化させる。実際に英国では、2025年以降の物価上昇率が大陸の欧州連合(EU)を上回っており、労働党政権による歳出の拡張が粘着的な物価上昇につながったと考えられる(図表3)。こうした粘着的な物価上昇の影響を受けて、英国では個人消費も足踏みが続いている(図表4)。

また労働党政権は、歳出の拡張と同時に、財政健全化の観点から歳入の増加にも取り組んでおり、増税を強化してきた。当然ながら景気停滞下での増税は国民に不人気であり、有権者の労働党離れにつながったと考えられる。こうした環境のなかで、保守派の有権者を中心に改革党や自民党を支持する動きが、また革新派の有権者を中心に緑の党を支持するという流れが強まった結果が、今回の統一地方選だったといえよう。

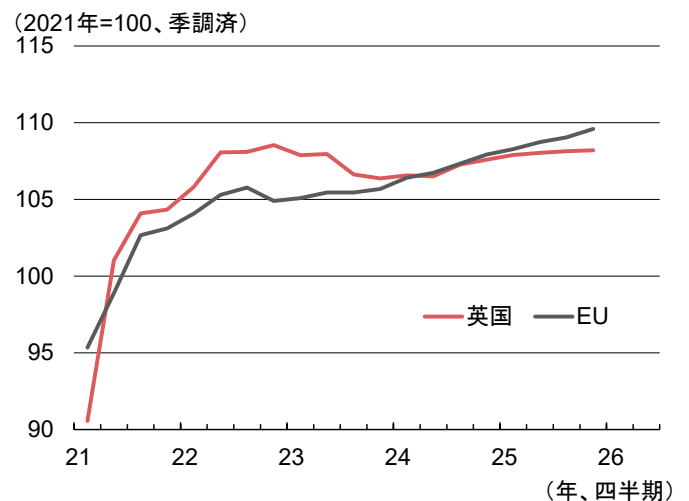
この統一地方選の結果を受けて、労働党内ではスターマー首相の責任論が浮上、辞任を求める声が高まっているが、スターマー首相は続投を明言している。議会下院(庶民院)が解散されない限り、労働党は2029年8月15日まで政権を維持できる。労働党はそれまでにスタグフレーションからの脱却などの経済的な成果を出さなければならないが、大きな政府路線を維持するなら、それは難しいと考えられる。

図表3. 英国とEUの消費者物価



(出所) 英国立統計局(ONS)及び欧州連合統計局(ユーロスタット)

図表4. 英国とEUの実質個人消費



(注) 対家計非営利団体部門(NPISH)を含むベース。  
(出所) ONS 及びユーロスタット

### 3. 懸念される労働党のさらなる左傾化

これまで英国では、二大政党制の下、労働党と保守党との間で政権交代が繰り返されてきた。とはいえ、今般の統一地方選でも明らかとなったように、労働党と保守党は人気の低下が激しいため、事実上の多党制に移行するのではないかという指摘が増えている。一方、英国の総選挙は小選挙区制で行われるため、その選挙区で実績を積み重ねてきた政治家に有利な設計となっている。

改革党は現在、庶民院 650 議席のうち 8 議席しか有していない。次期の総選挙では、保守党から改革党に鞍替えて立候補する政治家もいると考えられるが、保守党の責任政党としての実績を評価する有権者も少なくない。ファラージ党首自身、過激な主張を展開しているだけで、政治的な実績はほぼゼロであることから、改革党が保守党を上回る勢力になるとは予想しにくい。

他方で、短期的に予想される展開として、労働党のさらなる左傾化がある。つまり、より左派色の濃い政策運営を望む有権者の支持を集めようと、労働党が大きな政府路線を今後も推し進め、その下で分配政策や環境対策をさらに強化する展開である。こうしたことを進めれば、過剰規制に伴うコスト高が深刻化し、英国経済の成長力をさらに下押しする恐れがある

英国経済がスタグフレーションを脱却するうえで望ましい経済運営の在り方は小さな政府路線への転換であり、規制の緩和であるが、それは大きな政府路線を追求する労働党にとって、中道化あるいは右傾化を意味する。このことは中間層や無党派層の労働党への支持につながる可能性がある反面、保守党との違いが不明瞭となるため、労働党は左派の支持層を失う恐れがある。

とはいえ繰り返しとなるが、左派政策への傾斜はスタグフレーションを長期化させる。労働党政権が経済的な観点から大きな政府路線を修正できるか。それとも政治的な観点から大きな政府路線を強化するかが、当面の英国の経済情勢の注目点となる。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。